

『赤くなったかな？タコノアシ』～秋の三貫清水と鴨川湿地～

令和3年10月31日（日）

さいたま支部ペガサス分団

北区奈良町から日進町にかけての鴨川左岸は、高さ7～8m位の急峻な斜面が続いています。この斜面には、今も各所に斜面林が残り、多くの生物が生息しています。

特に、奈良町の三貫清水の森は雑木林が広がり、かつては春にフデリンドウが一面に咲きました。隣接する大宮北高校では校章のデザインにこのフデリンドウが使われています。今でもキンランやヤクシソウ、コウヤボウキなどの野草が見られます。斜面の下はその高低差ゆえに多くの湧水が見られます。豊かな湧水はかつて田を潤し、水田が広がっていました。今、水田はほとんどなくなりましたが、鴨川沿いの低地を潤し、ハッカやタコノアシなどの貴重な野草が見られます。

三貫清水とは変わった地名です。由来は室町時代の岩槻城主太田道灌の言い伝えによります。あるときこの地を訪れた太田道灌に、住民が湧水を沸かして茶を点でて出したところ、大変美味であったそうです。これを喜んだ道灌はそのほうびとして、銭三貫文を与えたといわれています。今のお金で50万円くらいといわれています。このような太田道灌の言い伝えは各所に残っています。しかしそこに話が残るにはそれなりの理由もあります。三貫清水は当時の南北交通の主要道路である鎌倉街道羽倉道が通っています。羽倉道は東京都東村山市で鎌倉街道上道から分かれ、志木、与野、上尾、伊奈、葛蒲を通過して栗橋方面に至ります。さらに、三貫清水にはもう1本重要な道路が近くを東西に通っています。それは道灌の領有する岩付（岩槻）と河越（川越）を結ぶ原市一河越道です。岩付と大宮の間には、見沼があるため、岩付と河越を結ぶ最短の道は、原市経由となります。つまり三貫清水は、羽倉道と河越道の交差点となっているのです。つまり三貫清水は交通上も軍事上も重要な場所だったので、太田道灌がこの場所を訪れていても不思議はありません。見沼という自然はこんな歴史とも結びついているのかなと思います。

1 期日 令和3年10月31日（日）

↑ 雨天、交通事情の混乱の時は中止します。

2 集合 宮原駅西口 午前9時30分

3 解散 宮原駅西口 午前12時30分頃

4 自然観察ウォーキング 全行程約3.2km

宮原駅→三貫清水の森→戸崎公園→日進堀の内→宮原駅

※天候などにより、当日になって行程を変えることもあります。

5 持ち物

雨具、セロハンテープ、持っていれば双眼鏡、マスク

6 その他

- ・ペガサス分団活動は参加人数を把握して資料を用意する関係上、事前の申し込みをお願いしています。
- ・小学4年生以下の児童には、保護者の方の付き添いをお願いいたします。
- ・途中で先に帰る場合は年齢にかかわらず保護者の方の付き添いをお願いいたします。
- ・団体行動です。1人で行動してはいけません。用事があるときはリーダーと一緒に行ってまいりましょう。
- ・危険なもの、まわりに迷惑をかけやすい物（刃物、ライター、モデルガンなど）は、持ってこない。
- ・天候、交通事情、団員の健康状態等で予定を変更することもあります。